令和七年　第六十回関西俳句大会

日時　令和七年五月二十四日（土）
会場　中央電気倶楽部ホール

朝日新聞社賞・関西俳句大会賞

軍手にもいつしか左右豊の秋　三重県　松村　正之

関西俳句大会賞

遠泳の頭が二つ遅れ出す　大阪府　田尻駿一郎
筋書きに無き猫よぎる村芝居　大阪府　南光　翠峰
水替へし金魚かたまりゐたりけり　奈良県　貞許　泰治
妙案のなし鯛焼を三つ買ふ　新潟県　髙埜　健蔵
始業ベル鳴りて未完の雪達磨　和歌山県　辻　幸子
沈黙は少女の鎧花柊　兵庫県　板倉眞知子
陪塚の影のうちなる冬田打つ　大阪府　浅田　光代
自然薯の先の読めざる長さ掘る　香川県　端　あつ子

特選　南　うみを　選

一塊の舐め上げられて子鹿成る　貞許　泰治
射止めたる猪をざぶりと谷川に　池田　緑人
鳩尾の他は虚空に梯子乗　木村　由希子

特選　江崎紀和子　選

豪雨禍の土手に無傷の曼珠沙華　尾崎　恵美子
軍手にもいつしか左右豊の秋　松村　正之
弾逸れし猪の疾さを称へけり　小津　溢瓶

特選　西村　和子　選

初凪の瀬戸百島を目のあたり　人見　正
残心の頬染まりをり弓始　大島　幸男
吉野杉昨夜の雪積み売られけり　池田　美砂子

特選　西池　冬扇　選

冬川にゆつくり溶くる鍬の泥　髙倉　明子

女雛また扇子落としてをらるるよ　神原　廣子

枯れつくし棒立ちの豆風に鳴る　金津　やよい

特選　野中　亮介　選

なまはげの声に疲れの見えにけり　塚本　治彦

塗箸に草石蚕つまんで共白髪　角野　京子

古日記六十年の誤字脱字　三津木　俊幸

特選　名村早智子　選

遠泳の頭が二つ遅れ出す　田尻　駿一郎

ほつとけば木になりそうな草茂る　本橋　無双

自然薯の先の読めざる長さ掘る　端　あつ子

特選　朝妻　力　選

沈黙は少女の鎧花柊　板倉　眞知子

煤逃げを集め米朝一門会　久保　昌子

風車立てて駆け来る三輪車　今井　文雄

特選　桑島　啓司　選

埋火や人の想ひに消せぬもの　島本　美紀

しやぼん玉みんなやさしく生まれけり　岩水　節子

剥落の土塀華やぐ蔦紅葉　奥原　尋嘉

特選　谷口　智行　選

毛糸玉哀しい夜を知つてゐる　中村　智雪

湯豆腐や何とか無事といふ暮し　田中　里美

れんげ摘む体操服の子供達　人見　洋子

特選　山尾　玉藻　選

妙案のなし鯛焼を三つ買ふ　髙埜　健蔵

保育器の君の名に来る賀状かな　西村　圭子

その日まで書込みありし古暦　蓮井　いく子

特選　浅井　陽子　選

一塊の舐め上げられて子鹿成る　貞許　泰治

一湾を大盃にして山笑ふ　西尾　敬一

軍手にもいつしか左右豊の秋　松村　正之

特選　和田　華凜　選

十二月八日パソコン起動せず　湯上　ひとみ
般若寺の風の七色秋桜　富田　範保
日輪のしばし留まる滝の上　岩水　節子

特選　宮谷　昌代　選

始業ベル鳴りて未完の雪達磨　辻　幸子
握る手を握り締められ暖かし　たなか　しらほ
海苔摘みの夜業を照らす小舟の灯　西岡　せつ子

特選　才野　洋　選

柩へと被らぬままの春帽子　岡田　邦男
卒業の青空へ向く蛇口かな　森　瑞穂
晩年といふ豊かさの落葉焚　山中　悦子

特選　小川　軽舟　選

観月会配所ならねど笛哀し　駒木　敏
遠泳の頭が二つ遅れ出す　田尻　駿一郎
太陽と遊びたき子のしやぼん玉　武田　巨子

特選　手拝　裕任　選

芋版のへび恐ろしき賀状かな　樋口　昇る
ほつとけば木になりそうな草茂る　本橋　無双
追ひ立てるごと片蔭の狭くなる　森本　成子

特選　染谷　秀雄　選

水舟の光を放つ茄子の紺　平尾　美智男
日に淡く翳れば濃ゆき冬桜　伊瀬知　正子
引鴨の翼も胸も漲れる　松井　洋子

特選　田中　春生　選

保育器の君の名に来る賀状かな　西村　圭子
沈黙は少女の鎧花柊　板倉　眞知子
太陽と遊びたき子のしやぼん玉　武田　巨子

特選　古賀　雪江　選

子供食堂寒灯をあふれさせ　髙田　佐土子
反転を繰り返す鯉春立てり　坂元　軒二
雪掻いて今日の力を使ひ切り　岩水　節子

特選　田島　和生　選

枯れつくし棒立ちの豆風に鳴る　金津　やよい

茶の花の日は裏山へまはりけり　水間　千鶴子

遠回りして着く能登の寒さかな　斎藤　詳次

特選　片山由美子　選

秋深しプラハは雨といふメール　佐藤　英子

春の灯や相寄り眠る籠の鳥　千鳥　由貴

宝舟耳の大きな神ばかり　三上　孝子

特選　井上　弘美　選

蛸壺に虫の音籠る蜑の径　手塚　泰子

一面の捨田を抜くる盆の道　小都　妙子

軍手にもいつしか左右豊の秋　松村　正之

特選　伊藤　瓔子　選

雲間より冬日一条爆心地　石橋　康徳

筋書きに無き猫よぎる村芝居　南光　翠峰

みづうみの句碑へととのふ鴨の陣　坂口　夫佐子

特選　尾池　和夫　選

野梅咲く浦曲に遺る舟隠し　桐本　美惠子

鉦太鼓渓へ谺す虫送り　古谷　多賀子

田仕舞の余燼に地酒温めけり　南光　翠峰

特選　柴田多鶴子　選

遠泳の頭が二つ遅れ出す　田尻　駿一郎

膝に立つ嬰の踏ん張り春隣　光田　道子

吾の畑紋白蝶の本籍地　相馬　行行子

特選　岩城　久治　選

釣果問ふ布衣の交はり鯊日和　左近　静子

あはうみの岸辺に春を見にゆかん　中島　正則

妙案のなし鯛焼を三つ買ふ　髙埜　健蔵

特選　森田純一郎　選

火床へと鞴祭の神酒を撒く　岡本　戎

陪塚の影のうちなる冬田打つ　浅田　光代

三輪山の映りをる田を植ゑにけり　大西　きん一

特選　三村　純也　選

大層に仕舞ひ込まれし懸想文　巫　依子
県庁の春動き出す花時計　西尾　敬一
水替へし金魚かたまりゐたりけり　貞許　泰治

特選　石井いさお　選

初凪や湖に人住む島ひとつ　宮田　絵衣子
登り窯余熱千度を露に吐く　水野　悦子
寒月光深海の中行くごとし　大瀧　和子

特選　大串　章　選

冬銀河遺品となりしスマホ鳴る　田村　喜子
紙を漉く本家分家の二軒のみ　古谷　彰宏
仏壇も瓦礫と化せり年明くる　村田　浩

特選　能村　研三　選

運筆のやうに雪降る初弘法　石川　渭水
ふらここや神ゐるやうなゐぬやうな　加茂前　朱美
陪塚の影のうちなる冬田打つ　浅田　光代

特選　富吉　浩　選

空白の日を鮮明に古日記　坂井　恭子
神もまた真空パック鏡餅　松村　正之
鉛筆の芯まで眠き春の昼　池田　華甲

特選　村上　鞆彦　選

木枯や漆重ねて能登に老ゆ　田村　英一
濁流の嵩まだ減らず夏の月　上田　孝佳
傷癒えし猟犬殊に逸りけり　池田　緑人

特選　徳田千鶴子　選

大根引く地下一尺までわが故郷　松村　正之
紙魚語る父の青春「軍歌集」　土居　直子
床下の手探りに出す蝮酒　小津　溢瓶